

令和6年度 英語教育推進事業 多治見市立笠原小学校の実践

【研究主題】生き生きとコミュニケーションを図る児童を育てる指導の工夫 ～笠原型コンテンツ・ベイストの手法を用いた授業づくりと到達目標を活かした評価を通して～

伝え合う内容と必然性を重視した言語活動

第5学年 Unit 3 “Can you play dodgeball?” の実践

【単元の目標】

○全員が楽しむことができる笠原小学校クラブを考え、校長先生に提案するために、自分の好きなことやできること、みんなにとっての良さなどについて、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。

笠原型コンテンツ・ベイストとは？

「伝え合う内容を重視し、問題解決的な活動により、伝え合う必然を生み出す」指導方法

「笠原型コンテンツ・ベイスト」の3つの特徴

- 1 問題解決的な活動により、「聞く・話す・読む・書く」必然を生み出すとともに、コミュニケーションへの意欲を高める場面を設定。
例えば、「○○アップを作るうー指下から話を聞くことで完成する表や本がある。」「何が入るかわかる？」→「聞く事で何が1番入るかわかる。」など
- 2 児童の意欲、関心が高い学習事項をいかした題材
例えば、「算数で勉強した色々な図形を組み合わせてオリジナルな絵を作ろう。」「社会科で勉強した自動車工業のことももとに、未来の自動車をデザインしてみよう」など
- 3 驚きや発見、気付きの生まれる伝え合ううちの高い内容
ア 自分に關する情報や自分の持つ意思
イ 本やインターネット等の外部からの情報や創り出したものについての情報
ウ 他の教科・領域の理解を促したり、深めたりすることの出来る本質に關わる情報

授業の企画の4つのポイント

- 1 児童の興味・関心の高い内容を取り扱う。
例えば、「友だちの好きな生き物は何だろう。」「自分の考えたオリジナルのお弁当を友だちにはいれようかな。」など
- 2 英語表現は、応用の利く表現を選ぶ。(汎用性の高い表現)
We can ~. Do you like ~? What do you like ~?
What ~. do you like the best? How old ~?
- 3 何回も同じ表現を聞いたり話したりできるように仕組む。
例えば、学校の仲間全員とコミュニケーションすることで解決する課題を仕組むことなど。
- 4 発話を急がせない。
十分に聞かせることを大切に、発話を急がせないようにする。

笠原小・中学校における単元構成の考え方

○単元の各単位時間に、以下の3つの役割をもたせて、一単元の指導を構造化している。			
【導入の時間】	【中盤の時間①】	【中盤の時間②】	【終末の時間】
・単元の活動の概要を理解し、学習の意欲をもつ。 ・題材に興味関心をもち、学習への意欲を高める。	・単元の終末の活動で必要となる、言語材料を聞き取りながら身に付けていく。	・コミュニケーション活動を通して、身に付けてきた言語材料を整理しながら、終末の活動につなげる。	・必然性のある問題解決的なコミュニケーション活動を通して、身に付けてきた力を発揮する。

【笠原型コンテンツ・ベイスト】

- 問題解決的な活動
- 児童の意欲、関心が高い題材
- 驚きや発見、気付きの生まれる内容

児童は、本単元において、「来年度に向けて、全員が楽しむことができる笠原小学校クラブを考え、校長先生に提案するために」、言語活動に取り組みます。そのため、児童は、自分の好きなことやできることを伝える必然性が生まれます。さらに、クラブの良さ(魅力)を伝え、「そのクラブに入りたいな」と相手(仲間)に納得してもらわなければなりません。このように、児童は、「伝え合う内容」と「必然性」を重視した言語活動をたくさん経験していきます。

児童に「思考力、判断力、表現力等」を育成するための指導の工夫

第4学年 Unit 7 “What do you want?” の実践

【単元の目標】

○学級の仲間にも食べたいと思ってもらえるように、オリジナルパフェやピザ、クレープについて、果物や食材などを、よさ(特徴)を伝える簡単な理由や感想を交えたり、おすすめを提案したりしながら、伝え合うことができる。

時	児童の学習活動	指導・援助		補助教材等
		HRT	ALT	
5	Small Actions Let's Chat を聞き、一緒に歌う。 Introduction 「お客さんに、さらに喜んでもらえるクレープを作ろう。」	・ALT と HRT のやり取りを聞いて、前時の想起し本時の課題と目的を理解する。 ・「お客さんに、さらに喜んでもらえるクレープを作ろう。」	・発音、言い方を確認する。 ・カードの中身を指示したり、ジェスチャー等を使ったりしながら、児童の理解を支援する。	食べ物写真 様子を表すビジュアルカード
10	Sharing time I 先の対話の中で、英語で言い表すためにはどうすればよいのか、分からなかったことや困ったことを交流し、全員で考える。おすすする時にどんな会話をしたか確認する。 Activity II ・中間交流から学んだことを生かして、注文を書いてクレープを渡す。 P1: Do you want fresh cream or jam? P2: I want fresh cream please. P1: It's strawberry. P2: Thank you. P1: How many? P2: Five strawberries please. P1: 1,2,3,4,5, strawberries OK? P2: OK. P1: What do you want? P2: I want fresh cream. P1: It's sweet. P2: Me too. P1: How many? P2: One please. P1: Here you are. P2: Oh nice crepe. Thank you.	<課題化> □HRT と ALT とのやり取りから、前時の学習課題「お客さんにハッピーになってもらうために…」と本時の学習課題「お客さんにもっとハッピーになってもらうために…」との違いを明確にした自然な課題化を行い、児童の「やってみよう」を引き出します。		
15	Sharing time II ・中間交流 I と同様、先の対話での発見や困り感を交流し合い、最後のやりとりにつなげる。 Activity III ・自分の考えた名前と絵を描いてお客さんに渡す。		・英語での表現に困る児童に声をかけ、表現したらいよいよアドバイスする。	
22	Sharing time III ・自分の考えた名前と絵を描いてお客さんに渡す。			
28	Comment ・自分の考えた名前と絵を描いてお客さんに渡す。			
35	Greeting			

<中間指導(交流)II>

□本時の学習課題に立ち返り、「お客さんにもっと喜んで(ハッピーになって)もらうためには？」と発問し、「オリジナルの名前を付けること」を児童と共有する。この指導により、児童は、本時のねらいの達成に迫ることができます。

ここが秀逸！

- ・言語活動設定の視点として、「必然性」、「ほんもの」、「相手意識」、「コミュニケーションの意義や楽しさ」の四つが重要であると言われています。本校の「笠原型コンテンツ・ベイスト」は、これらの視点ととても親和性が高い指導方法であり、これまでの実践の中で、この指導方法を大切にしています。
- ・児童に「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、コミュニケーションを行う目的や場面、状況など(以下、目的・場面・状況)を設定します。本校では、目的・場面・状況が明確になるように、児童(ALT)と「やり取り」をしながら、自然な課題化を行い、中間指導(交流)では、ねらいの達成のために、目的・場面・状況に基づいた指導を継続しています。